令和6年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【蓮沼小・中・中等教育学校】

①	今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 「当該学年の前の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。」 <指導上の課題> 児童が自らの学びを振り返る時間を確保しているが、児童の自己調整する方法をここに合わせて指導することが不十分である。	⇒	「基礎定着」の時間を設け、児童の実態に合わせてドリルパークやスタディ・サプリ等を効果的に活用し、国語の基礎・基本となる語彙等の反復・習熟に取り組む。【2週間に1度】スタディログ等を使い個別に学習計画を立てる（見直す）時間を設定する。【月に1度】学習の振り返りを実施し、授業において、一人ひとりの児童に合う課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定する【毎授業で5分実施】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 「話すこと・聞くこと」が課題である。 <指導上の課題> 児童一人ひとりに合った自己表現する方法を教師が十分に評価し改善策を提案できていない。	⇒	「話すこと・聞くこと」が課題であるため、様々な教科で、話し手の意図をとらえながら聞き、必要に応じて記録を取り、自分の考えがもてるようにするために、活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする【R6年度さいたま市学習状況調査】「学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていますか。」の質問事項において【肯定的な回答の割合を90%以上】

②	全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）
知識・技能	国語科の「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる」問題で課題がみられた。問題別解答類型をみると無解答率が高く読書に関しての有用性や効果等について実感していない、また読書の記録から読み取った内容を選ぶことができなかった児童が多いと考えられる。読書タイムの活用、作者の記録からの読み取りを活用しながら、自分の考えや友達の考えを共有していく機会をより増やしていく。
思考・判断・表現	算数科では、「データの活用」領域において、「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取り式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかみる」問題に課題があった。問題別解答類型をみると、基準値をこえる計算において間違いをしている傾向もみられた。「数と計算」を定着させるために、学習履歴の活用や個々の課題に合う、ドリルをアプリ等も活用しながら選び、基礎定着タイムで実施いていく。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「基礎定着」の時間や、授業の最後等に児童自身が ドリルパークやスタディ・サプリ等を活用し、自身の課題に取り組む習慣ができた。スタディログ等やスクールダッシュボードを活用し、学習計画の見直しやや授業改善に取り組み機会が不足していた。児童が主体的に課題を解決したりする場を設定することが増えた。	児童の学習計画の見直しのための時間を意図的に設定する。教師が、スタディログを確認する時間を設定する。
思考・判断・表現	B	活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現するために教育支援ソフトを活用して授業を実施することができた。	変更なし

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）
知識・技能	
思考・判断・表現	

⑤	評価（※）	授業改善策の達成状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	